PIGEON

News Release

＜報道関係各位＞

ピジョン株式会社

2018 年 2 月 20 日

大きくなった「シングルタイヤ」で、対面走行時の押しやすさが進化

～より段差※1 を乗り越えやすく、赤ちゃんへの衝撃も少ない～

新しい「Runfee（ランフィ）」登場

2018年3月2日（金）全国で発売開始

ピジョン株式会社（本社：東京、社長：山下茂）は、タイヤ径をより大きくすることで、対面走行時でもさらに押しやすくなった新型ベビーカー「Runfee（ランフィ）」を、2018 年 3 月 2 日（金）より全国で発売します。

当社が行った調査※2 では、両対面式ベビーカーを持つママの約 9 割が「赤ちゃんの顔が見える方が安心できる」という理由で「対面式」でベビーカーを使用していることが分かりました。しかし、その中の**2 人に 1 人以上のママが対面走行時にストレス**を感じており、その**ストレスの原因は、主に「操作性」と「段差乗り越え性」**によるものでした。また、加えて調査をすると、**7 割以上のママが、段差のつまずきによる衝撃などが赤ちゃんに与える影響を心配している**、ということが明らかになりました。（※詳細は別紙）

こうしたママの悩みに応えるべく、**新しい Runfee は対面時の前輪のタイヤを 18.0cm に大径化し、フレーム構造を改良、ハンドルに工夫を加えることで、段差の乗り越え性を向上させ、対面走行時の押しやすさが進化しました。**

今回、街中の歩道の段差※1 を想定した実験を行ったところ、

一般的なベビーカー※3 では一度も乗り越えられなかった 2.5 ㎝の段差を、新しい Runfee はスムーズに乗り越えることができました。また、同じく2.5 ㎝の段差を、新しいRunfeeで乗り越えた際の赤ちゃんの頭部への衝撃は、一般的なベビーカーでつまずいた際の衝撃と比べて、**約 50%も軽減**。さらに、段差を 2.0 ㎝に低くし、新しい Runfee と一般的なベビーカーがそれぞれ乗り越えた際の、赤ちゃんの頭部への衝撃を比べると、新しいRunfeeは**約 40%も軽減**することが分かりました。（※詳細は別紙）

Runfee ランフィ

「アビスブルー」

16.5cm

対面時前輪 18.0cm

※1　歩道と車道の間にある 2cm 程度の段差。道路状況によって乗り越えることが難しいことがあります。

※2　2018 年 1 月 ピジョン調べ　　※3　当社従来品(タイヤ径 13.8 ㎝)

＜商品特長＞

1）大径「シングルタイヤ」で、街中の段差もスムーズに乗り越えられる

対面時の前輪のタイヤを16.5ｃｍから18.0cmへ大きくしました。対面走行時では18.0ｃｍの大きな前輪で、歩道などの段差をよりスムーズに乗り越えることができます。赤ちゃんが大きくなって背面で使用する際には、後ろにかかる重心をしっかり支えます。

＜タイヤの特長＞

1. ダブルタイヤに比べ地面との接地面積が少ない**「シングルタイヤ」は**、クイッとスイスイ押しやすい。
2. **「スイング式サスペンション」**が、上下と前方向からの力を吸収して、段差を乗り越えるときの赤ちゃんへの衝撃を和らげます。
3. タイヤが空洞の**「中空構造」**で、軽くて、クッション性が高く振動を吸収します。

「スイング式サスペンション」

「中空構造」

2）フレーム構造の改良で、さらに押しやすい

ハンドルからタイヤに繋がるフレーム構造を見直すことで、対面走行時に押す力がよりダイレクトにタイヤに伝わりやすくなりました。

ベビーカーを押す際の足元はシングルタイヤの利点を生かして間隔が広く、足があたりにくいので自然な歩幅で歩けます。

3）ギュットグリップ搭載で、手元から押しやすい

手元のグリップがやわらかく手のひらにフィットし、しっかり握れるのでさらに押しやすくなりました。

また、グリップの裏地にはハンドルに密着する特殊素材、帝人フロンティア（株）のナノフロント®を採用することで、通気性が良く、嫌な匂いがありません。

グリップの裏地に帝人フロンティア(株)
のナノフロント®を採用

＜商品概要＞

商　品　名	Runfee（ランフィ）　RA8
発　売　日	2018 年 3 月 2 日（金）
税込価格	57,240 円
カ　ラ　ー	4 種：「アビスブルー」、「ミニマルネイビー」、「シュシュグレー」、「マニッシュブラック」
対象年齢	生後 1 カ月～36 カ月まで
タ　イ　プ	両対面式、オート 4 輪切替機能搭載
重　量	5.3Kg (シリーズ最軽量)※4
タイヤ径	対面時前輪 18.0cm 対面時後輪 16.5cm
リクライニング角度	100 度～175 度
サ　イ　ズ	折畳時：W516×D380×H1028mm 展開時：W516×D830×H1015mm（背面位） ：W525×D945×H1015mm（対面位）
安全基準	SG 基準（A 形）適合
商品サイト	https://pigeon-htravel.com/runfee/

※4 ピジョンベビーカー「Runfee」シリーズ

＜商品ラインアップ＞

アビスブルー

ミニマルネイビー

シュシュグレー

マニッシュブラック

＜ピジョン純正レインカバーも同時発売で登場！＞

ピジョンベビーカーにぴったりサイズのマルチレインカバー。
雨だけでなく、風よけにも。パッと開いてとりつけ簡単。

■商 品 名：マルチレインカバー両対面用／背面用
■価　　格：両対面用　5,400 円(税込)　背面用　5,184 円(税込)
■対象機種：fino,Runfee(両対面用)
　　：Bingle,PATTAN(背面用)

＜ピジョン大型商品サイト「Happy Travel」リニューアルオープン！＞

ピジョンのベビーカー商品ラインアップ、商品情報はもちろん、初めてのベビーカー選びをお手伝いするコンテンツが増えました。ベビーカーの基礎情報やライフスタイルに合わせた選び方等、初めてママをサポートします！

Happy Travel　https://pigeon-htravel.com/

■一般の方からの問い合わせ先：お客様相談室　TEL:0120-741-887　https:// support.pigeon.co.jp

ピジョン株式会社

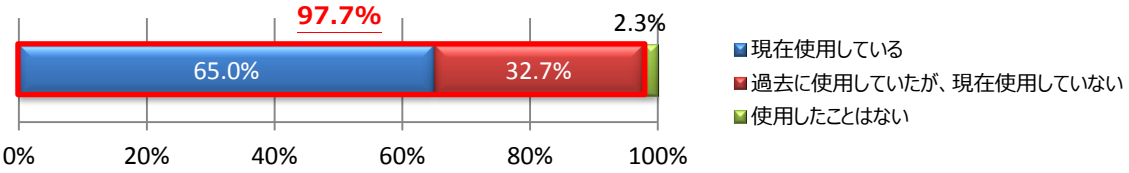
＜参考資料 1＞

全国の約 350 名のママを対象に、両対面式ベビーカーの使用実態調査を実施！

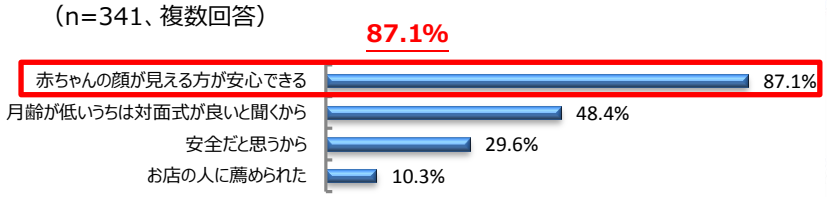
●ほぼ全員のママが対面式でベビーカーを使用している！

97.7%のママがベビーカーを「対面式で使用をしている／使用していた」と答え、その理由として「赤ちゃんの顔が見える方が安心できる」が、87.1%を占めることがわかりました。

ベビーカーを「対面式」で使用していますか。あるいは過去に使用していましたか。（n=349、単数回答）



ベビーカーを「対面式」で現在使用している・使用していた理由はなんですか？
（n=341、複数回答）

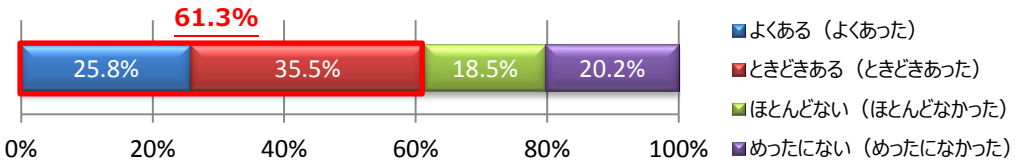


対面式　　背面式

● 2 人に 1 人以上のママが対面走行時にストレスを感じている！

61.3%のママが背面式に比べて対面式での走行にストレスを感じており、そのストレスの理由は、主に操作性と段差乗り越え性であることが明らかになりました。

「対面式」での走行時、「背面式」よりストレスに感じる／感じていたことはありますか。（n=341、単数回答）

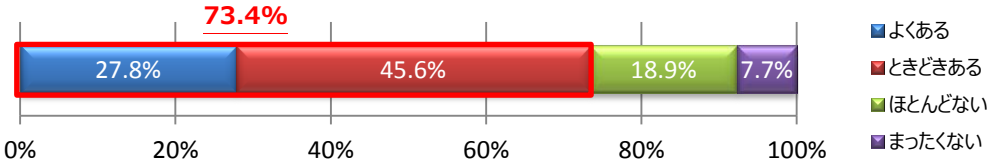


「対面式」での走行時、「背面式」のときに比べて特にストレスを感じる／感じていた場面はありますか？（n=341、複数回答）

● 7 割以上のママが、段差のつまずきによる衝撃などが赤ちゃんに与える影響を心配している！

多くのママが、特に首のすわる前の時期に、ベビーカーの「段差のつまずきによる衝撃」や「路面からの振動」が赤ちゃんに与える影響を心配しており、その割合は全体の 73.4%にのぼりました。

赤ちゃんの首がすわる前の時期（生後 0 カ月～3 カ月頃）、段差のつまずきによる衝撃や路面からの振動が、
ベビーカーに乗っている赤ちゃんに影響がないか気になったことはありますか。（n=349、単数回答）



＜調査対象＞　未子が 2 歳以下の子を持ち、両対面式ベビーカーを使用している 20-30 代のママ　349 名
＜調査方法＞　インターネット調査
＜調査時期＞　2018 年 1 月

＜参考資料　2＞

ピジョンは、東京工業大学　工学院システム制御系　宮崎祐介　准教授の指導のもと、一般のママ４名に被験者として協力いただき、「対面走行時」におけるベビーカーの「段差乗り越え性」と、「赤ちゃんの頭部への衝撃」に関する検証実験を実施しました。その結果、以下３点が明らかになりました。

① **一般的なベビーカーでは一度も乗り越えられなかった2.5㎝の段差を、新しいRunfeeはスムーズに乗り越えることができました。**

② **2.5cmの段差の場合、新しいRunfeeで乗り越えた際の赤ちゃんの頭部への衝撃は、一般的なベビーカーでつまずいた際の衝撃と比べて、約50%軽減されていました。**

③ **2.0cmの段差の場合、新しいRunfeeで乗り越えた際の赤ちゃんの頭部への衝撃は、一般的なベビーカーで乗り越えた際の衝撃と比べて、約40%軽減されていました。**

【■実験内容】 生後３カ月の赤ちゃんを想定したダミー人形をベビーカーに乗せて、一般のママ４名が約 5km/h の速度で「対面式」のベビーカーを押し、２通りの高さの段差へそれぞれ接触する。この実験をタイヤ径 18.0ｃｍ（新しい Runfee）と、タイヤ径 13.8ｃｍ（一般的なベビーカー）の２種類のベビーカーで繰り返すことで、「段差乗り越え性」を検証するとともに、段差接触時に「赤ちゃんの頭部にかかる衝撃」を計測しました。

■実験１：2.5cm の段差の乗り越え性

2.5cm の段差では、新しい Runfee が 14 回中 12 回段差を乗り越えることができたのに対し、一般的なベビーカーは１回も乗り越えることができませんでした。このことから、タイヤ径の大きいベビーカー（新しい Runfee）の方が、段差の乗り越え性が高いこと分かりました。【表１】

【表 1】 段差を乗り越えた回数

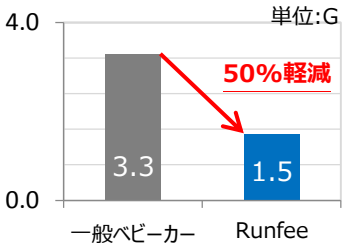
タイヤ径	段差2.5cm
18.0cm (新しいRunfee)	12/14回
13.8cm （一般的なベビーカー）	0/13回

■実験２：2.5cm の段差接触時における、赤ちゃんの頭部への衝撃測定

(※新しい Runfee で段差を乗り越えた場合と一般的なベビーカーで段差につまずいた場合の比較)

実験１の 2.5ｃｍの段差に接触時における、赤ちゃんの頭部への衝撃を測定しました。新しい Runfee で段差を乗り越えた際の赤ちゃんの頭部への衝撃と、一般的なベビーカーでつまずいた際の衝撃を比較すると、被験者４人の平均値が、新しい Runfee：1.5Ｇ、一般的なベビーカー：3.3Ｇとなり、新しい Runfee では赤ちゃんの頭部への衝撃を約 50%軽減できることが分かりました。【表２】

【表 2】被験者４人の平均値の比較



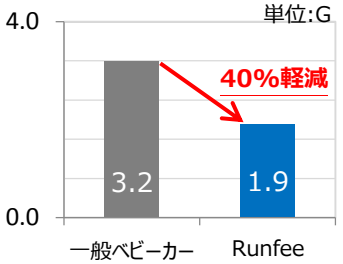
⇒ 新しい Runfee は高い段差もつまずかずに乗り越えることで、赤ちゃんへの衝撃を軽減できる

■実験３：2.0cm の段差乗り越え時における、赤ちゃんの頭部への衝撃測定

(※新しい Runfee と一般的なベビーカー、どちらも段差を乗り越えた場合の比較)

最後に、2.0cm の段差を、新しい Runfee と一般的なベビーカーのどちらも乗り越えた際における、赤ちゃんの頭部への衝撃を測定しました。その結果、被験者４人の平均値が、新しい Runfee：1.9Ｇ、一般的なベビーカー：3.2Ｇとなり、新しい Runfee では赤ちゃんの頭部への衝撃を約 40%軽減できることが分かりました。【表３】

【表３】被験者４人の平均値の比較



⇒ 新しい Runfee は、一般的なベビーカーが 2.0 ㎝の段差を乗り越えた場合と比較しても、赤ちゃんへの衝撃が少ない

実験を指導した宮崎准教授によると、「タイヤの径が大きいほうが、段差の高さとの物理的法則による理論的関係性からも、段差の乗り越え性は高くなります。また段差を乗り越えやすいということは、赤ちゃんへの衝撃も抑えることにも繋がります。こういったことから、大きな径のタイヤは段差乗り越え性と赤ちゃんにかかる揺れの観点から有利なのです。」

東京工業大学　工学院　システム制御系
宮崎　祐介　准教授

博士(工学)。2012 年より現職。
人間に作用する力と怪我の関係を物理的な観点から研究。
交通事故や家庭内事故、揺さぶりなどを対象にダミー人形で衝撃を計測し、脳にダメージを及ぼすメカニズムを解明した。